

# 高知県のいの町（旧本川村）所在鰐口銘文の紹介と検討

—八十八ヶ所成立論根拠資料の再吟味—

内田 九州男

はじめに

高知県のいの町（旧本川村）にある「鰐口」は「村所八十八所」、「文明三」等の銘文があることであつたと有名である。しかし、一時期鰐口が行方不明となつていたこともあつて、この鰐口とその銘文に多くの研究者が接した訳ではないようである。

たとえば、一九七九年刊の宮崎忍勝著『遍路 その心と歴史』（小学館）は鰐口銘文を紹介して

これによつて四国八十八カ所の成立は文明三年、すなわち室町の中頃にはすでに確定していて一般庶民の間に遍路がおこなわれていたとする説もある。しかし、この銘にある村所八十八カ所、今日いうところの村々、町々にある新四国や島四国が成立するのは江戸時代に入つてからのことである。（略）目下所在不明である。所在不明の金石文字をめぐつて、とやかくいう自信は私には持ち合わせがない。

とし、銘文の問題点を指摘しているが、具体的な検討と判断は避けている。

この鰐口は、一九八四年（昭和五九年）に本川村史編集委員会の「本川神楽・神社・仏堂及び古文書」調査のなかで再発見された。その銘文全体の紹介とその検討結果は『本川村史 第二巻 社寺・信仰編』（一九八九年）に詳しく載せられている。またその後岡本桂典が現物調査の結果も入れて、「土佐国越裏門地蔵堂の鰐口と四国八十八カ所の成立」（『考古学叢考』一

九八八年、以下岡本論文とする）を書き、これがこの鰐口銘文研究のもつとも詳しいものとなつている。

しかし宮崎の指摘にもあつたように、銘文にある「村所八十八ヶ所」を写し霊場と判断するならば、この本川村の例は極端に古く、孤立した写し霊場の例であつて、他の史実と矛盾する可能性は大であるが、しかしそれを否定する根拠も方法も見つからないという状況であつた。結局はこの銘文自体の資料批判をきちんと行つてその結果を全体で共有する以外はないのであるが、銘文が判読できるような写真図版等は『本川村史 第二巻 社寺・信仰編』を初めどこにも掲載されていない。

報告者は平成十七年（二〇〇五）に調査を行い、デジタルカメラで銘文を撮影した。今回はその画像を使用して銘文全文と報告者の行つた検討内容を報告し、資料の共有化を果たそうとするものである。得難い調査の機会を与えていただいた越裏門地区ならびにいの町教育委員会本川教育事務所に感謝の意を表するものである。

〔付記〕本稿に用いた黒地に白抜き図版は報告者によるカメラ画像処理後のものである。

報告当日は使用しなかったが、判読の便のためこの報告に利用した。作成方法は銘文集成参照のこと。

## 一 鰐口の姿と銘文の全体像

## 二 銘文の検討

先ず越裏門地藏堂の鰐口の姿を示しておこう。最大長は十五・一cm、厚さ三・五cmである。あわせて岡本論文より銘文の位置を示す図(図2・図4)を引用しておきたい。鰐口は図版に見るとおり一部欠損している。

さて、岡本論文によれば、この鰐口の両面に四個の種子と六十四の文字が刻まれているという。その銘文は

(正面) カ(地藏種子) 大日本國土州タカヲコリノホノ河 懸ワニ口

福蔵寺エルモノ大旦那 福嶋季クマ タカ寿 妙政

(裏面) 大旦那村所八十八カ所文明三天 右志願者皆三月一日 妙政

(種子?) (種子?) (種子?)

と判読されている。そしてその意味するところは、

この鰐口銘によれば、土左国高岡郡本河の越裏門にある現地藏堂の前身と推定される福蔵寺に懸けられていた鰐口であったことがわかる。そして現在の越裏門は、土佐郡に属しているが、文明年間には、高岡郡に属していたことが明らかになった。また、この鰐口を作るべく願ったものは、福蔵寺に関係した妙政であったことも理解できる。妙政は、越裏門の名主層と理解される福嶋季クマ・タカ寿の援助及び八十八カ所の信者たちの援助により鰐口を寄進したものと考えられるとされている。

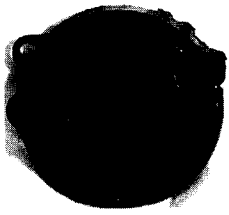


図1 鰐口正面



図2 銘文位置図



図3 鰐口裏面

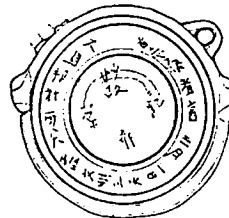


図4 銘文位置図

銘文全体の画像は表157(後掲)に掲げたので、それを参照していただきたい。

文字の刻方には五種類あって、それを紹介する。

第一の刻方。この刻方は、縦や横の線を幾重にも使って文字を刻むやり方である。この方法で刻まれた文字が最も多い。その例をいくつか示す。

文字例「大旦那」の「大」、「旦」、「那」。

図5-1 「大」



図5-2 同上



図6-1 「旦」



図6-2 同上



図7-1 「那」



図7-2 同上



図5が「大」の字で5-1がカメラ画像、5-2が内田の処理画像である(図版の枝番号の意味は以下同じ)。図6、7は「旦」と「那」の字。何れもこれらの文字は岡本論文のようにには読めない。特に「旦」は「鳥」を刻もうとしたように思える。

文字例「懸ワニ口」、「福蔵寺」、「右志願」。縦横斜めの線を幾重にも重ねる典型でかつ一部は判読できるが、一部は判読不可の例。

図8-1-1 「懸ワニロ」



図8-2同上



図9-1 「福蔵寺」



図9-2同上



図10-1 「右志願」



図10-2同上



図8-1-1の「懸」は懸とは読めず、「聚」に近い。「ワニロ」の「ロ」は了解できるが、「ワ」は「ラ」と読め、「ニ」は判読不能。図9-1「福蔵寺」の「福」と「寺」は苦しいがそう読めなくもない。「蔵」は無理。図の10-1の「右志願」の「志」は、そのように判読できる。しかし「右」はその意図を読み取ってかつ妥協して「右」と読めると言って良いであろう。「願」は後に示す全く読めない刻方の例の一つである。

第二の刻方。この刻方は、線をほとんど重ねずシャープに刻み、文字を小さく仕上げるものである。文字例は「八十八」と「天」。

図11-1 「八十八」

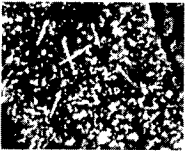


図11-2 同上

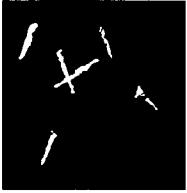


図12-1 「天」

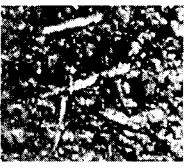
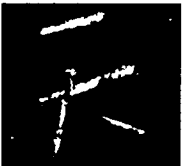


図12-2 同上



「八十八」のうち、「十」の横線が1回追加で刻まれているようだが、他は鋭く、恐らく一回ずつの線で刻まれている。この文字の読みは「米」ではとの見方もある。「天」は「八十八」の「八十」の二文字の大きさに相当する。

第三の刻方。この刻方は、すごく弱い線が刻まれている点に特徴がある。文字例は「文明」。

図13-1 「文明」



図13-2 同上



「文明」の「文」の字は横線が折れ曲がっており、斜めに交差する線は共に何回か線を繋ぐ等第一の刻方に近い。つぎの「明」と読まれている分はすごく薄い刻方である。このままでは「明」とは読めない。ただしこの部分については、摩耗しているのではないかと指摘もあつて、その可能性は否定できない。この「明」と同じ刻方は「土州」の「州」の字である。

第四の刻方。これは文字にならない刻方である。先に示した「願」もこの刻方である。文字例は「ホノ河」、「カ所」の全文字と「福嶋」、「者皆」の一部。

図14-1 「ホノ河」



図14-2 「???」



図15-1 「福嶋」



図15-2 「福？」



図16-1 「カ所」



図16-2 「??」

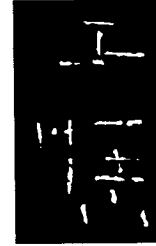


図14と16の右横の読みで「？」とした部分には判読不能の部分である。

第五の刻方。これは文字の改竄と思われる刻方である。文字例は「土」。

図17-1 「土州」



図17-2 「？」



図17の1は「土州」と読まれている文字であるが、「州」の文字は非常に弱い線で刻まれているため判読はかなり困難だ。そして上の文字が改竄されていると筆者が判断している文字(図17-2)で、どう見ても「土」ではない。では元の字は何か。あえて筆者の推測を述べるならば元は「与」、これが「土」に替えられたのではないかと考えられる。

### おわりに

鰐口の銘の刻方の紹介を行ってきた。こうした検討を全文字におこなって岡本論文の判読との相違を一覧したのが後掲の表1と7である。

報告者の判読した銘文を書き出すと、鰐口正面では








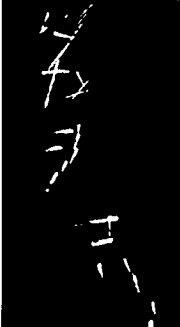


■日本 ■州夕 ■ヨコリノ ■口福 ■寺エルモノ ■旦  
福 ■季 ■マタ ■妙政

裏面では

■村所八十八 ■文 ■天 右志 ■者 ■三月一日 妙政 ■  
となった。この結果「ホノ河」を初め地名に関わる重要部分と、「文明三」の年紀も読めなくなった。さらに「福嶋」も再検討である。従ってこの鰐口の資料的な信憑性は完全に覆ったのであり、四国八十八カ所が文明三年以前に成立していたという説は成り立たないこととなった。

再発見されたこの鰐口を調査して執筆された『本川村史』第二巻社寺・信仰編では、もともと本川村は土佐郡にあるのに、「タカオコリ」を「高岡郡」と解釈することを合理的に説明しようとして成功していない。また寄進者名としての福嶋姓を考証しようとして「納得する結果」を見いだせなかったとも記している。元の判読に無理があつたことを示しているのであろう。ついでに申すならば、『高知県の地名』(平凡社刊)では「越裏門」は「えりもん」と読ませ、岡本論文でも同様のルビを付しているのに、「エルモ」を「越裏門」に当てることが全く問題にされていないのも不思議なことである。

表1 銘文集成1

岡本論文の判読	銘文の写真	内田処理画像	内田の判読
カ (地蔵種子)			■
大日本国			■ 日木*
土州			■ 州*
タカヲノリノ			タ ■ ヲ コ リ ノ
ホノ河			■ ■ ■

(注1) 内田処理画像の作成方法。先ずデジタルカメラ画像を印刷し、その印刷画像面に、周辺の傷やボディ面と区分するために、刻線部分に赤の油性マジックペンで彩色した。次にこれを画像処理ソフトに取り込み、その画像面から赤色部分のみを残し周辺を黒にした。そして最後赤色部分を「明度」を100%にする。その結果赤色が飛び黒地に対して真っ白になる。こうして作成したのが、黒地に白抜きの内田処理画像である。この方法の問題点は、筆者が彩色する際の線の判定に主観が入ることにある。不鮮明な線が多いと主観が入る度合いも高くなる。画像処理ソフトは「アドビー フォトショップ」を使用した。

(注2) ■は判読できないもの。

(注3) ※の付いている文字は強いて読めばそのように読めるというものを示す。

表2 銘文集成2




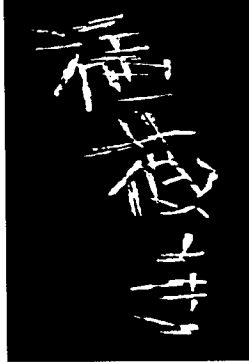



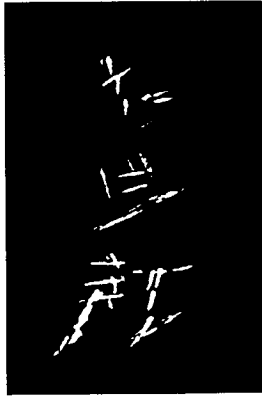
岡本文論の判読	銘文の写真	内田処理画像	内田の判読
懸ワニ口			<p>■ ■ ■ 口</p>
福蔵寺			<p>福* ■* 寺*</p>
エルモノ			<p>エルモノ</p>
大旦那			<p>■ 旦 ■</p>

表3 銘文集成3






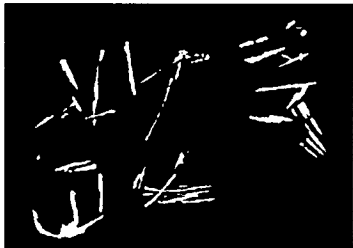


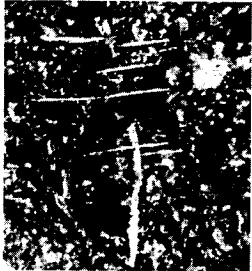
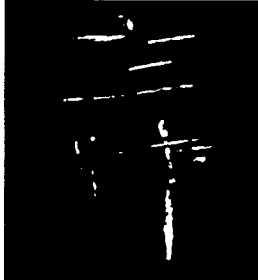
岡本論文の判読	銘文の写真	内田処理画像	内田の判読
福嶋			福 <sup>*</sup> ■
季			季 <sup>*</sup>
クマ妙政			■マ妙政
タカ			タ ■
寿			■

表4 銘文集成4




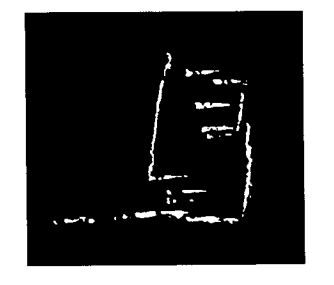

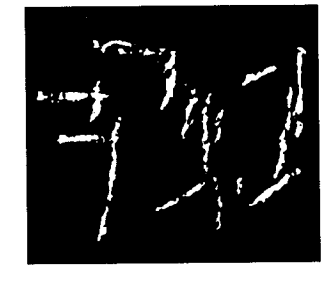
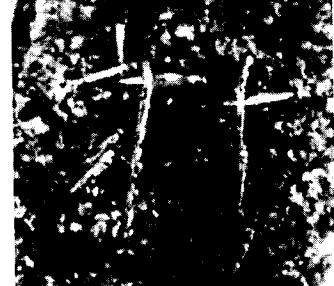
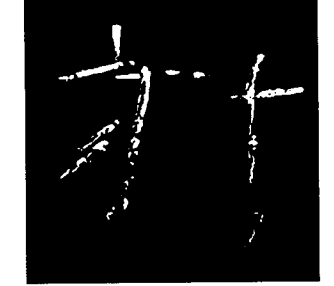


岡本論文の判読	銘文の写真	内田処理画像	内田の判読
大			■
旦			■
那			■
村			村*
所			所



表5 銘文集成5

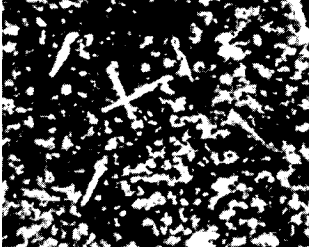
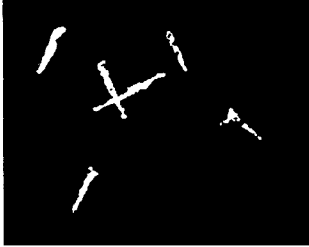

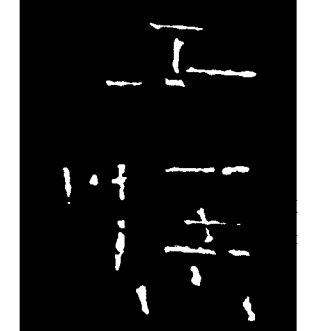

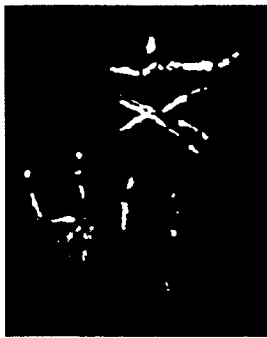
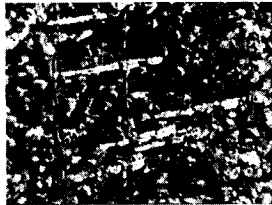
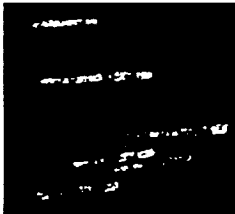

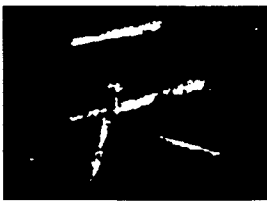
岡本論文の判読	銘文の写真	内田処理画像	内田の判読
八十八			八十八
カ所			■
文明			文 ■
三			■
天			天

表6 銘文集成6









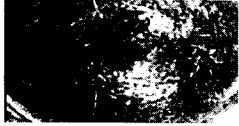
岡本論の判読	銘文の写真	内田処理画像	内田の判読
右志願			右志願* ■
者皆			者 ■
三月一日			三月一日*

表7 銘文集成7

岡本論の判読	銘文の写真	内田処理画像	内田の判読
妙政			妙政
種子? 種子? 種子?			■ ■ ■